

山形市PTA連合会 会報

じゅひょう

山形市PTA連合会ホームページ

ymgtcity-pta.com



検索

第 36 号

平成30年12月発行

発行 山形市PTA連合会
会長 佐藤 博之
山形市十日町一丁目6番6号
県保健福祉センター内
TEL 023-631-0055
印刷 中央印刷株式会社



第61回山形市PTA連合会研修大会(山形テルサ)7月8日(日)

『子どもを愛し 地域を愛し 互いを信頼し合うPTA』

～織り成す縁に感謝 子どもたちと一緒に今を生きる～

HP : <https://www.ymgtcity-pta.com> E-mail : info@ymgt-pta.jp

**2022年度
第70回日本PTA全国研究大会山形大会 決定!!**

「子どもを愛し 地域を愛し 互いを信頼し合うPTA」

～織り成す縁に感謝
子どもたちと一緒に今を生きる～



山形市PTA連合会会長 佐藤 博之

日頃より山形市PTA連合会の活動に対しましてご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、単位PTAにおかれましても、子どもたちを健全に育む環境づくりに学校と地域の架け橋としてご尽力いただいておりますことに心より感謝と敬意を表する次第であります。

さて、山形市PTA連合会の今年度は「子どもを愛し 地域を愛し 互いを信頼しあうPTA」～織り成す縁に感謝 子どもたちと一緒に今を生きる～のスローガンのもと活動を展開してまいりました。いつの時代でも心豊かでたくましい子どもたちであって欲しいという願いとともに、親たちも一緒にお互いを信頼し合い成長していくことを主眼としております。人と人との縁は不思議なものであり、そしてとても大切なことであります。その中で感謝し合い、一緒に今の時代を生きていく覚悟が必要と感じます。またその環境を作り得るのが我々PTAの役割と考えております。「教育の基盤は家庭にあり」というPTA活動の原則のもと、親もしっかり学び、研修し、子どもたちを育て自らも成長していかなばなりません。

その集大成として「第61回山形市PTA連合会研修大会」が山形テルサを会場として「皆ではぐくもう 夢に向かってはばたく未来の宝を！～ふるさとを愛し、ふるさとに学ぶ・I♡山形～」というテーマのもと開催されました。全体行事・分科会を通して子どもたちの未来を、ふるさと山形の未来を創造するために、具体的な事例発表や意見交換が活発に行われました。山形市教育基本計画「郷土を誇りに思い、いのちが輝く人づくり～山形らしさの継承 発展 そして発信～」というテーマを踏まえた素晴らしい大会になったと思います。さらに母親委員会主催で開催した「いのちの大切さ学習会」、また部活動、スポ少についての教育懇談会等、親としての学びを深めることができたと思っております。PTAは私たちの研修の場です。様々な価値観に触れながらその違いを認め合い、互いに信頼し合い子どもたちの健全育成につなげてまいりましょう。

この度、山形市PTA連合会有志で応援団を結成いたしました。「親の背中を見せる」などとカッコいいことを言うつもりはありませんが、「我々PTAは家庭、学校、地域、そしてすべての子どもたちの応援団である」という理念のもと、全力で応援する姿を演出してまいりました。子どもたちや保護者の方々の笑いを誘い、少しでも記憶に残ってくれたら幸いです。併せて団員も募集しておりますので我こそは！という方をお待ちしております。

結びになりますが山形市教育委員会様をはじめ、関係各位の皆様にご心から感謝申し上げますとともに、今後ともご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、あいさついたします。



山形市PTA連合会有志による応援団

「良樹細根・大樹深根」ということ

—子どもたちの良さを見つけ、伝え合う—



山形市教育委員会教育長 荒 澤 賢 雄

山形市PTA連合会並びに各単位PTA、そして、会員の保護者の皆様には、日頃より山形市の教育にご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。また、学校内外において、子どもたちの健全育成や環境整備にご尽力され本市教育の向上・発展にご貢献いただいていることについても心より感謝を申し上げます。さらに、佐藤博之会長はじめ、各小中学校のPTA会長の皆様や役員の皆様方には、学校、家庭、地域社会の連携の要として多大なるご活躍をいただいていることに対しても、深甚なる敬意を表します。

さて、「良樹細根・大樹深根」という言葉があります。細やかでしっかりした根が張っている木は枝葉もよく茂り、また、根が地中深くまで張っている木は、その分、大樹・大木となるという意味のようです。

とかく私たちは、地上に伸びた枝ぶりや葉の茂り具合に目を奪われやすいものです。でも、一番肝心なことは目に付かない地中の根っこの状態なのかもしれません。人についても同じようなことが言えます。すぐに目に付く言動・行動は大変気掛かりなものですが、その言動・行動を支えているものは普段余り目に付かない、言わば地中に潜んでいるような、その人の資質や能力なのです。子どもたちを大樹のように大きく育てるために、様々な資質や能力の育成が大切です。

しかし、良樹・大樹になるためには、育てなければならない資質や能力はたくさんあります。だからと言って、子どもたちに性急な「無いものねだり」を要求するだけでは、子どもの反発を買ったり、子どもが戸惑ったりするばかりです。最初から「無いもの」だけを求めるのではなく、まずは、「有るもの」にこだわり、それを生かしていくことが何よりも大事なことだと思います。子どもたちはみんなキラリと光る、その子なりの良さを持っています。でも、自分でも気付いていない良さ、未発見の埋もれている良さもあるはずです。

親や教師をはじめ周りにいる大人の役割は、子どもたちにしっかりと向き合い、子どもたちの「良いところ」を見つけ、「伝えていくこと」です。子どもたちは自分の良さをしっかりと自覚することで適切な自尊感情も培われます。

PTA活動の中でも、互いに子どもたちの良さを見つけ合い、伝え合えることができれば、素晴らしいことですね。市P連の活動や各単位PTAの活動を仕組むときに、『子どもたちの良さを見つけ、伝え合う』という視点を常に持っていただければ幸いに存じます。その子なりの「良いところ」を見つけ、それをさらに伸ばすことによって、それとは違った資質や能力も刺激され、きっと相乗効果が発揮されることと思います。

山形市PTA連合会の皆様と共に、家庭と学校、地域、様々な関係機関との連携・協力のもと、子どもたちの根っこをしっかりとものにしていきたいものです。そのために、子どもたちの良さを見つけ、それを伝え合うことに努力してまいりましょう。皆様と共に子どもたちが、良樹・大樹となるよう、子どもの根っこを一緒に育ていきたいものです。

第61回山形市 P T A 連合会研修大会

「山形愛」を深めた研修大会を終えて

大会実行委員長 山形市立第一中学校 P T A 石 澤 淳 一



第61回山形市 P T A 連合会研修大会は、皆様からご協力ご支援をいただき、お陰様で無事に盛会の内に終えることができました。心より感謝申し上げます。

今回の研修大会は「皆で育もう 夢に向かって羽ばたく未来の宝を」～ふるさとを愛し、ふるさとに学ぶ・I♡山形～というテーマのもと開催いたしました。子どもたちを取り巻く環境が日々進歩・複雑化してきている中で、多くの課題や問題が指摘されております。その一つに、少子高齢化による人口減少や大都市への人口集中がありますが、それは今後も続くと思われます。このような環境であるからこそ私たち P T A の役割は益々重要になると思います。子どもたちが有意義な学校生活を送るためには、家庭・学校・地域の三者の連携・協力は欠かせません。また、自然豊かで歴史ある山形の素晴らしさを伝えていくことも大事だと思います。大会の中で B. L E A G U E チェアマン大河正明氏からは「プロスポーツチームが地域活性に貢献し、子どもたちに大きな夢や希望を与えられる」というお話がありました。これからは、私たち保護者が手と手を取り合い豊富な知恵をだして魅力的な P T A 活動を進めていかなければなりません。今回の研修成果が今後の P T A 活動の場で皆様のお役に立つことができれば幸いです。

最後になりますが、お忙しい中、平成最後の研修大会にご参加いただいた山形市内小中学校 P T A の皆様にご心より感謝申し上げますとともに、P T A の益々の発展をご祈念申し上げ御礼のことばと致します。

第70回日本 P T A 全国研究大会 山形大会開催決定



山形市 P T A 連合会前会長 鈴 木 真 一

昨年の会長を務めている期間中に、東北6県と北海道地区の中から2022年度の全国大会の開催地を選出することになりました。立候補するにあたり私自身も何のためにそんな大変なことを開催するのか。開催してどうなるのか。大変悩みましたが、第70回という記念大会を山形で開催することで、必ずや山形県の P T A の活性化に繋がるという思いで立候補を決意しました。何県かが立候補する中、何とか賛成多数で誘致が決定しました。ぜひともこの機会を活用し山形の P T A 活動を全国に P R してほしいと思っています。

私が会長の期間中、子どもたちの様々な問題と向き合う場面がありました。SNSの問題、不登校の問題、いじめの問題等様々な問題を子どもたちは抱えています。しかしながらどの問題も子どもより先に親の考え方や行動が変わることではほとんどの問題が解決できるのではないかなと思える時もありました。私たち親が目標を持ち生き活きと生活し、様々な価値観に触れ、その違いを認め合い、より健全な価値判断で自分を磨いていくことが、子どもたちの健全育成に必ずや繋がっていくものと思います。今後、全国大会を開催するにあたり、沢山の P T A の方々からご苦勞頂きますが、是非沢山コミュニケーションを取って頂き、一致団結して取り組んでいくことが、子どもたちの問題の解決に繋がっていくものと思います。

これからの準備の期間、子育てとは何か？ P T A の役割は何なのか？もう一度考え、全国大会時にはすばらしい山形の P T A 活動を全国の皆さんにお伝えできれば有意義な大会になると確信しています。

平成30年度

教育懇談会

日時 平成30年10月12日（金） 17：00～ 場所 パレスグランデール

テーマ 部活動の現状と運動部活動の在り方に関する総合的なガイドラインについて

山形市PTA連合会理事 緒方 晴 英



今年度の教育懇談会のテーマは、当初の予定を変更し、教育委員会からの要請もあり、近年特に話題になる「スポ少」と「部活動」について、実態の情報とそれぞれの意見を交換する研修会とし、山形市教育委員会より荒澤教育長をはじめ11名のご出席をいただき、中総体新人戦が終了して間もない10月12日に開催いたしました。

はじめに、スポーツ保健課主任指導主事 木村潤一様から、話題提供として「部活動の現状と運動部活動の在り方に関する総合的なガイドラインについて」お話をいただいたあと、教育委員会の皆様にもグループの中に入ってもらい、8グループに分かれての話し合いとなりました。

ガイドラインについてのお話の中で、部活動の意義と部活動から得られることについて、また、平成29年のスポーツ庁の調査と、4年に一回行われている山形市部活動実態調査の平成30年の結果をもとに、現状把握している点についてご報告いただき、とりわけ、活動日数と時間、休日の状況、ほかのスポーツ団体との連携上課題とされる点などをご指摘いただいたうえで、平成30年3月にスポーツ庁が打ち出した「部活動のあり方に関する総合的なガイドライン」についてご説明いただきました。

グループによる話し合いは、視点1「各校の部活動・スポ少の成果（良さ）について」と、視点2「各校の部活動・スポ少の課題・見直すべきことについて」に分け、グループリーダーを中心に、各校の実態の報告をはじめ、個人的な感想や意見を頂きました。そのあと全グループから記録者による発表を行い、佐藤山形市PTA連合会会長より総括と講評をいただきました。グループ発表では、発表予定時間をオーバーするなど、関心の高さを感じました。また引き続き行われた懇親会でも、各校のスポ少、部活動の現状などが話題の中心となり、貴重な情報交換が行われました。

以下、研修会の中から、少し御紹介します。

まず、視点1の「成果」について。

- ・学年、クラスを越えた集まりの中で、礼儀、作法、コミュニケーション力等を通じて、お互いを認め合う力、結束力、一体感、などが育まれ、人間関係の人格形成がされる。
 - ・集団としても個人としても目標を持つことで、目的の達成感や、試合に勝つことの成功体験を得ることで、これから生きていくうえでの自信などを持つ事が出来る。また逆に目標が達成できなくとも、悔しさを糧に、精神的に強くなり、壁を乗り越えようとする力が育つ。
- といった点が多くみられ、これらは部活動もスポ少も、ほぼ変わりありませんでした。

続いて、視点2の「課題」について。

- ・小規模の学校の場合、部活の選択肢が少ない。また、少子化もあって、スポ少に入る人数も減ってきている。
- ・子ども同士、目標ややる気の差、保護者同士の温度差。
- ・試合などで、応援など保護者が熱すぎる場合があるのではないかな。また、送迎や審判等の負担の問題もある。
- ・指導者の熱意が有りすぎたりすると、練習時間が長くなることも多く、学習、競技、体力の兼ね合いが難しくなっている。
- ・スポ少と学校行事が重なった時、スポ少を優先するところもある。
- ・部活動の運営面や専門性について、顧問の先生の負担も大きいのでは。

など、「成果」に比べて、スポ少、部活動それぞれの課題の焦点にちょっとした違いが見られましたが、ほぼすべての学校で共通した課題であったようです。

参加者の皆さんからは、他校の情報がいろいろと得られてよかった、多くの方々との意見交換が必要で、またこのような機会を設けて欲しい、といったご感想をいただきました。この教育懇談会が、これからの部活動等を考えていくうえでの一助となれば、との思いを込めて、また、ご参加頂いた皆様に御礼申し上げ、報告とさせていただきます。

実践 報告

子どもを愛し・地域を愛す —織り成す縁に感謝—

実践 事例

子どもたちの「あそび」と「こまくさ祭り」

山形市立第三小学校PTA会長 古 沢 和 明

私たち三小PTAには「こまくさ祭り」という祭りがあり、今年で19回をかぞえます。

「こまくさ祭り」の目的は、子どもたちに「あそび」を提供することにあります。その背景には、子どもたちの遊びがゲーム等のメディアが中心となっており、その結果、他者との関わり・コミュニケーション能力の欠如が危惧される、ということがあります。

何もない所でどうやって遊ぶか、ルールを自分たちで決め、全員が楽しめるように工夫する。遊びでなくても、私たち大人も実社会において重なる場面があると思います。

今年も晴天の中、11月4日に開催され、子どもたちの楽しそうな声や大きな笑い声が校舎・体育館・グラウンドに響き渡りました。各学年PTAが準備した「あそび」や飲食ブースのほか、母親委員会による体操着や鍵盤ハーモニカ等のリサイクル販売、宮町寺子屋・北部生活学校といった地域団体、こんにゃく道場・県LPガス協会青年部といった外部団体にもブースを出店していただきました。今年の「あそび」ブースでは、ゴム飛びやケンケンパ、竹馬、糸電話といった昔遊びから、雑巾掛けのタイム競争やパチンコを使ったペットボトル倒しといったアイデアが詰まった遊びも登場し、また、普段は体験できない「火起こし」も行うことができました。

毎年、長期間にわたり企画・準備を行っていますが、PTA会員の協力はもとより、学校や地域の支援があってこそ継続できているものと思いますし、子どもを楽しませるアイデアを出し、時間と労力をかけた分だけ子どもたちの成長に寄与するものと信じています。

今後も、こまくさ祭りで遊んだ「あそび」を次の日から友達同士や親子で遊んでもらえることを目的とし、遊びを通じて他者との関わりを学び、ともに協力しあえる子どもの育成を目指していきたいと思っています。



実践 事例

「地域と共にある学校」

山形市立本沢小学校父母と教師の会会長 伊 藤 一 洋

本沢小学校は山形市南西部の本沢地区にあり、豊かな自然に囲まれた中にあります。

本校がある本沢地区は、農業が盛んな地域で「ぶどう（デラウエア）」「青菜漬け」が特産です。また、古墳などの史跡も数多く、中でも出羽の関ヶ原・長谷堂合戦の舞台になった長谷堂城跡は有名であります。

本校では「豊かな心で、かわりを大切に、ともに生きる喜びを感じる子どもを育てる。」を学校目標に、子どもたちの主体性を育む教育活動に取り組んでおり、その手助けとなるような活動を父母と教師の会で実施しております。

特に、創立以来、学校と家庭、地域が共に連携し一体となって、子どもたちの健康教育を図る教育の実践を継続的に取り組んできたことが現在、素晴らしい伝統となっております。

その中の一つとして、「学校と地域との連携研究会」という活動があります。この活動は、本校が昭和31年尋常小学校から本沢小学校となった2年後の昭和33年（1958年）から始まったものであり、子どもたちを地域と連携し育むという趣旨のもと、様々な活動を実施して参りました。

平成30年は、親子で本沢地区の歴史を学んだり、本校校歌を作詞された結城哀草果先生の校歌に込めた想いを子どもたちと共に保護者、地域の方々と一緒に学ぶ活動を実施しました。

本校は地域に唯一の学校であり、地域のシンボル、そして地域住民の拠り所ともなっております。思い出を作ってくれた学校は「ふるさと」であり、そして、これから子どもたちにとっては、将来の夢の出発点となる「ふるさと」です。

今後も学校と地域との関わりを大切にして、良き伝統を継承し継続させ、ともに力を合わせ本会活動や地域活動に努めて参りたいと思います。



「互いを信頼し合うPTA」 子どもたちと一緒に今を生きる—

実践事例

「今と向き合い、すべての事に自分から行動を」

山形市立第七中学校PTA会長 高 梨 哲 也

山形市立第七中学校は、今年60回目の創立記念式を行ないました。人間でいうと還暦を迎えるわけです。平成最後のしかも30年で60回と忘れられない記念すべき年にこのように皆さんから読んでいただける会報に言葉を残すことが出来る事、心から感謝し楽しんでいます。

この半年間に実践したことや思ったこと、感じたことを記します。七中は、今年度から専門部を統合し2つに集約しました。他の学区でも同様に生徒数およびPTA会員の減少が、問題になっていますね。行事も減っています。保護者の負担が減っているのは事実ですが、PTA会員の交流の場が減るのは正直、私はプラスにはなっていないのかな、と感じています。とはいえ、この時代の流れや今の情勢が、いきなり変わる訳でもありません。まずは、やはり自分自身が、「今と向き合い行動を」することです。創立記念式では、漢字にまつわる話をしました。「記念とは、『今、自分の心にある事を言う』と読み解けますよね。今君たちの心にある事を言うてみるのも想うのも書きとめるのもいいでしょう。」と生徒たちに語りました。そして、秋の大運動会では、生徒たちにエールを送りました。佐藤連合会長により、応援団を結成していただいたおかげで色々な場面で応援エールをさせていただいています。「自然災害が日本中で起きていて、運動会が出来るのがあたりまえでない人たちがいる事を胸に置いて、楽しんでな！！」と、生徒だけでなく先生やPTA会員の皆さまにも語りかけてきました。11月3日に三学年役員が、学年行事「合格祈願もちつき」を盛大に開催し、たいへん盛り上がりしました。当然私もつきました。身体中にもちが飛び散り、自分で笑ってしまいました。残りのPTA活動も皆さんと一つでも多くの笑いを共有していきたいと思っています。



実践事例

『明るく 元気に 素直に』

山形市立蔵王第一中学校PTA会長 山 口 徹

私たちの山形市立蔵王第一中学校は、山形市南西部に広がる素晴らしい田園地帯に位置する、今年度で創立71周年を迎える歴史と伝統のある中学校です。（昭和22年5月の学制改革により南村山郡堀田村立堀田中学校として設立、その後昭和31年12月に市村合併により現在の校名に改称されました）

桜田小学校、蔵王第一小学校、蔵王第二小学校の3校から子どもたちを迎え、今年度は382名の生徒数です。

さて、私たちPTA会員もその3校から集まり、組織を形成し、活動することとなりますが、毎年テーマを掲げて取り組んでいます。

今年度は、子どもたちの豊かな学びや健やかな成長と幸せを願い、学校（教師）、家庭（保護者）、地域が学びあい連携しながら、『明るく 元気に 素直に』取り組むことをテーマとして、お互いに協力をし、心合わせを行いながら活動を進めて参りました。

PTAの主な組織・活動としては、各学年部は『親子研修会や懇親会企画実施』、広報部は『会報 蔵王嶺（年2回）発行』、保体部は『運動会運営協力やPTA球技大会の開催』、環境部は『草刈等の環境整備や下校時の立哨活動』、母親委員会による『学校保健委員会の開催や制服お譲り会、母親研修会』です。そして現在は、次年度を迎えるにあたり、生徒数の減少による（H24年度から約12%減）『地区役員定数減』や『2020年度以降の理事選出方法に係る会則改正』を進めております。

最後になりますが、今後も子どもたちを取り巻く環境は『いじめ』『不登校』のみならず、『ネット』の問題も複雑化していくことが予想されます。その中でも、これまで以上に地域との連携を取りながら、力を合わせ、真摯に向かい合い、取り組んで参りたいと思います。

第43回 山形市PTA連合会ソフトボール大会

平成30年10月28日（日）於：山形市スポーツセンター、山形市ソフトボール場、山形四中グラウンド、山形一中グラウンド

山形市PTA連合会副会長 宇野正彦

一週間前から天気予報とにらめっこする自分がいました。なんとしても2年連続中止はしたくない思いがありました。10月末ごろの天気は変わりやすく、三日前の予報すらあてにならず、日々変わる予報に不安をかかえながら当日を迎えました。そして、その日の朝、空を見上げたとき、開催できる喜びと安心感でいっぱいでした。

ものすごくチームを作り上げた学校や、ようやく人数を確保して出場してきた学校など様々でしたが、どのチームも学校代表という誇りを持ち真剣プレーで取り組んでいただきました。試合なので結果はつきものですが、勝敗にかかわらず、終わってからはどの選手も笑顔でした。大会の趣旨である「交流・親睦」が十分に深められたことと思います。

今回で43回目を迎えた歴史と伝統のあるこのソフトボール大会。しかしながら、近年出場校が年々減少してきております。たかがソフトボールと思う方もいると思いますが、先輩方が作り上げてくれたこの大会を後輩たちにも大切に受け継いでもらい、さらに50回、60回を迎えられるようにしていただきたいと思います。

最後に、この大会に尽力していただいた各学校の関係者の皆様、大変ありがとうございました。



第七小

| ブロック名 | 優 勝 | 準 優 勝 | 第 三 位 | |
|-------|-----|-------|-------|-----|
| 霞城公園 | 第七小 | 第九小 | 第六小 | 西 小 |
| スポセン | 桜田小 | 東沢小 | 蔵王第一小 | 楯山小 |
| 山形四中 | 南 小 | 第五中 | 村木沢小 | 鈴川小 |
| 山形一中1 | 第十中 | 第九中 | 第七中 | 第八中 |
| 山形一中2 | 第四中 | 第六中 | 第二中 | 金井中 |



桜田小



南小



第十中



第四中

平成30年度 小・中学校部会

山形市PTA連合会理事（小部会長）高野秀哉

平成30年度の小・中学校部会は、6月23日（土）に山形国際ホテルにおいて開催いたしました。

今年度は、趣向を変えて山形市内各小・中学校のPTA会長の皆様と山形市政等を理解し勉強しようということで佐藤孝弘山形市長にお越しいただきました。

研修内容としましては、第1部、研修1としまして、佐藤孝弘山形市長と佐藤博之山形市PTA連合会会長による今後の市政についてと市長の子育て観についてのディスカッション形式の対談を行いました。

まず、佐藤会長が今年の山形市予算についてと予算編成の考え方、また健康医療先進都市の実現に向けて、地元企業の支援、人材確保、企業誘致について、土地の有効活用、新たなイベント、交流人口、スポーツについて、教育について、いじめ・不登校について学校の現場について（先生方の職場環境）、など質問しながら対談をしました。

その質問に対して、佐藤孝弘山形市長から一つ一つ丁寧に説明していただきました。教育については、平成28年11月に策定された山形市教育大綱の説明、またいじめ・不登校には、発見、解決は当たり前だが、その後のフォローが重要と考えているとの説明がありました。

最後に参加者の中から質問コーナーがあり、霞城公園の今後の整備についてや、佐藤孝弘山形市長は東大卒業ですが、どうしたら東大にはいれますかなどの質問があり、盛り上がりました。

第2部、懇親懇談会1として、各テーブルを佐藤孝弘山形市長より回っていただき、参加者の方々と直接交流していただく機会を設けました。懇親懇談会2では、各校の活動の成果や課題等について情報交換が活発に行われました。

結びになりますが、今回ご参加いただきました佐藤孝弘市長そして 各小・中学校のPTA会長、PTA連合会の事務局の皆様にご感謝申し上げ、平成30年度小・中学校部会のご報告とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。





いのちの大切さ学習会

「性教育は、生きるための心を学ぶ教育」

山形市PTA連合会理事 菅 野 学

11月17日、山形ビッグウイングで開催された学習会に参加させていただきました。

講演を約1,200回務めているという、渡會先生のわかりやすいお話に加え、自分の認識不足を実感させられたこともあり、2時間ほどの講演でしたが、大変充実し、為になる学習会となりました。

「性教育」がテーマということもあって、参加する前は、ちょっと気が引ける思いがありました。私と同じような方も多いかと思いますが、それは「性教育」＝「嫌らしいもの」というイメージがあったからです。これまでは、普段子どもと接する上でも、そういった話題はできるだけ避けたい、という気持ちが働いていたことは否定できません。

しかし、今回渡會先生のお話をお聞きし、性教育は、「心のあり方」の教育が基本であり、心と体を大事にして生きていくための教育であることを痛感させられました。

私は、小（双子）・中・高それぞれに通う4人の息子を持つ父ですが、今回のお話で、それぞれのステージに沿った系統的で継続的な教育が大事であることを学びました。

例えば、感染症予防については、小学生の時期に、粘膜を大事にし、清潔を保つことを教えること、中学生の後半では、性感染症がどういうもので、予防のために何が必要かを教えることなど、子どもに対して、適切な時期に正しい知識を与えなければならないことを知りました。そして、そうした教育が、性感染症予防、自分を大事にして相手のことも大事にすること、ひいては自殺予防・虐待防止、人工妊娠中絶を減らすことにもつながることを学びました。

最後に、最も印象に残ったことは、頭では分かっているつもりのことでした。それは、家庭で家族が話し合うことが大事であり、コミュニケーション能力を高める、ということです。今後の家庭生活において、しっかり子どもと向き合い、話し合いを重ねながら、子どもに必要な心の成長を後押ししていきたいと思います。



平成30年度 山形市PTA連合会 母親委員会 活動報告

テーマ「命の尊さ大切さ」～かかわる喜び つながる心～

○定例母親委員会

- ・第1回母親委員会（5／8）今年度の活動計画・情報交換
- ・第2回母親委員会（7／3）情報交換「ワールドカフェ」
- ・第3回母親委員会（2／中旬）今年度の反省・情報交換

○親学「家庭教育視察研修」(10／17)

- ・東根市公益文化施設まなびあテラス

○拡大母親委員会（11／17）

講演：「いのちの大切さ」～性教育と子どもの恋愛～

子どもの人生を守る

生きるためのこころの教育（性教育）を考える

講師：渡會睦子 氏（東京医療保健大学 教授）

○母親委員会だより「マザーズねっとわーく」No.23 3月発行



山形市PTA連合会母親委員長 高 見 佳 澄

日々母親委員会の活動に、ご理解・ご協力いただきましてありがとうございます。また、単位PTAにおかれましても活発な活動をしていただき感謝申し上げます。

本年度は、子どもに必要なのは一番身近な親の愛情やスキンシップではないかと考え、「子どもと親のかかわりの大切さ」を考えながら活動してまいりました。

また、お母さん同士のつながりが重要と考え、情報交換に重点を置き、子どもたちの抱えている課題について話し合っていました。出していたいた課題の中から、研修や視察につなげております。皆さんとともに学び合い、今後の様々な活動に生かしていけるように努めていきたいと思っています。

子どもたちの永久の笑顔を目指して

山形市PTA連合会第17代会長 逸見良昭



私がPTA活動から離れて10年余りが経ちました。会長時代の3年間は「変革の時代、共に学び、共に築き、共に行動するPTAの創造」～子どもたちの永久の笑顔を目指して～をスローガンに活動してまいりました。そして、時代や社会環境が変わったとしても、子どもたちに対する親の思い、深い愛情は普遍であると信じ、子どもたちに愛情を注ぎながら手間暇をかけ、心をこめ、心を尽くし、心をはぐくむ活動を目指し、学校・地域と共にPTA活動を行っていました。当時は常に熱い思い、熱い心が活動を支えていたことが本当に懐かしく思い出されます。そして、それらの活動を支えてくれた仲間が存在があった事を忘れずにはられません。同じ目的に向かって共に考え、共に行動してくれた多くの仲間は人生の宝であり、大きな財産でもあります。改めて感謝したいと思います。

さて、今PTA活動で最も大切なことは何でしょうか？

変化する時代の中で、社会環境・教育環境も大きく変わり、子どもたちを取り巻く環境もまた変化しています。そして、抱える課題・問題は複雑化しています。だからこそ親として、先生として（PTAとして）、全ての課題・問題に対して正面から立ち向かい、かけがいのない子どもたちのために、だれかが何かをしてくれることを求め・待つのではなく、子どもたちのために何ができるのかを本気で考え、行動することが必要だと思います。その為に、親は学校、先生方をより深く理解する努力をし、学校・先生方は親に対してより深く理解してもらうよう、開かれた学校・学級経営を目指していただきたいと思います。そこに強固な信頼関係が生まれ、ひいては子どもたちの永久の笑顔が生まれるにちがいありません。

終わりに、各単位PTAのますますの活躍と山形市PTA連合会の更なるご発展をご祈念申し上げます。

つながりを大切にして

山形市立東小学校 校長 東海林 昭 善



ずいぶん前のことで恐縮ですが、教務主任として当時勤務していた学校でPTAを担当し始めた頃、教頭先生から、PTA活動では、「育成」「研修」「広報」の3つを大切にするようにと教えられました。PもTも力を合わせて子どもたちの「育成」に取り組むために、さまざまな「研修」をとおして力を高めたり、「広報」することで共有したりすること。前年度までの事業を滞りなく進めることしか頭になかった私への、この3つをキーワードとしてPTA活動をとらえ直すようにとの教えだったのだと思います。

その後、いくつかの市町あるいは学校のPTA活動に参加する中で、この3つに加え、その土台となる「つながり」の大切さを感じています。いっしょに研修したり、企画、運営したりすることで、つまり活動をするのとおして、つながりが生まれ、広がり育まれていくと感じています。まさしく、本市PTA連合会のスローガンにある『織り成す縁に感謝』です。ときに楽しみ、ときに目的を忘れ横道に逸れ、ときに面倒…、迂遠な道筋かもしれませんが、私たちの「つながり」は、子どもたちの成長に欠かせないことだと思います。

第50回日本PTA東北ブロック研究大会秋田大会に参加して

山形市PTA連合会理事 菅 江 正 幸



9月15日・16日に秋田市で開催された第50回日本PTA東北ブロック研究大会秋田大会に参加させていただきました。東北各県から1800名を超えるPTA関係者が集まり、「つながろう東北 深めよう絆 美の国秋田で学びあおう～未来を拓く子どもたちのために～」を大会スローガンに、5会場で全体会と6分科会が行われました。

1日目は各分科会が行われ、私は第1分科会に参加させていただきました。第1分科会は「学校再編に伴うPTAのこれから」をテーマに行われました。まず、「少子化、そして学校再編」と題して、群馬県立女子大の佐々木尚毅教授の基調講演があり、その後、3校の事例発表とパネルディスカッションがありました。それぞれに共通していたのは、今後ますます少子化が進んでいくなかでも、前向きに、子どもたちを中心に考えるPTA活動を展開していくことが大事であるということでした。2日目は全体会が行われました。来年度の東北ブロック研修大会は本県が開催地となることから、南陽・東置賜大会の嶋貫実行委員長より力強い次期開催地挨拶がありました。また、読売新聞特別編集委員の橋本五郎さんと女優の菊池桃子さんによる対談があり、子どもたちに対するそれぞれの想い、日本の教育についての提言などについてお聞きすることができました。

私達PTAは、子どもたちが安心して学び、健やかに成長し、集える環境を整えていくという大きな責務があります。そのためにそれぞれが知恵を出し合い、連携し、意欲的に活動することが大事なのだと改めて感じた大会でした。今後とも、子どもの笑顔があふれるための活動を継続してまいります。

第65回日本PTA全国研究大会に参加して

山形市PTA連合会理事（中部会長）伊 藤 誠



●8月24・25日に越後新潟の地で開催された、第65回日本PTA全国研究大会に参加してきました。全国各地から約7500名のPTA関係者が集まり、「教育は未来を拓く新潟発米百俵の精神！～新潟に集い、語ろう未来の人づくり～」という大会テーマのもと熱い時間を過ごして来ました。大会中、幾度となく

聞いた米百俵の精神とは、「百俵の米も食べばたちまちなくなるが、教育にあてれば明日の一万、百万俵になる。その米を売り学校の資金にあて将来の教育に託す」という先人の言葉でした。その想いを、現在の複雑化、多様化した子どもたちを取り巻く環境と照らし合わせながら、未来の人づくりのために家庭、学校、地域で何ができるのかを考え合った大会でした。

●24日に参加した第二分科会では、親が子どもに与えられるものは、「愛情と親自身が幸せに生きている姿を子どもに見せること」と、私がいつも心がけていることを話してくれました。その中で、「子どもは親の言動を通して自分とは何か、社会とは何かを学び、その通りに生きていく。親の行動が子どもの人生を左右する」という厳しいお話があり、やはりPTAは「親と教師が子どものために学ぶ場所であるべき」という原点に立返ることができました。

●25日の全体会記念講演では、俳優高橋克実氏の「人生が明日終わるとしたら子どもの頃おふくろが作ってくれた“味噌おにぎり”が食べたい」との言葉から、子どもの幸福度を左右することにも、親が大きく関わっていることを感じずにはいられませんでした。

●大会最後には、真っ暗になった大ホールの壁一面に長岡花火大会の模様を映像と音で再現。映像とは思えない迫力満点の花火が今回参加した仲間との熱い想いと一緒に心に刻み込まれました。自身の成長につながる貴重な機会を与えて頂き、ありがとうございました。

平成31年度 第62回山形市PTA連合会研修大会



実行委員長 山形市立第二中学校父母と教師の会 佐藤 隆 幸

皆様こんにちは。第二中PTAの佐藤です。平成31年度、第62回山形市PTA連合会研修大会は第二中・第七小・西小・宮浦小が主管校となり、来年の7月7日（日）七夕の開催に向けて準備を進めております。

親として、またPTA活動を通じて思う事は子どもたちの笑顔は宝だという事です。子どもたちが日々楽しい学校生活を過ごす事が親の願いですが、家庭だけでなく学校、地域でも子どもたちのためにより良い環境を創りあげていかなければなりません。

第62回のPTA研修大会では過去・現在のPTAを振り返り、より良いものを未来に繋げるために今何が必要か・・・皆様の意見や考えを充分に出して頂き、柔軟に話し合える環境を創りたいと思っております。

来年度開催に向けて主管校4校一丸となって準備して参りたいと思っております。ぜひ多くの皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

晴れの受賞 おめでとうございます (山形市PTA関係)

☆日本PTA全国協議会会長表彰（個人）

- ・尾形吉則 県P監事

☆東北ブロックPTA協議会会長表彰（団体）

- ・山形市立出羽小学校PTA

☆山形県PTA連合会会長表彰（表彰状）

- ・佐藤公啓 市P研修大会前実行委員長
- ・田中正浩 市P連前副会長

☆山形県PTA連合会会長表彰（感謝状）

- ・鈴木真一 県P連前会長
- ・渡邊裕美 県P連前理事
- ・堀田理恵 県P連前母親委員長
- ・阿部 勉 県P連前監事

◆ 平成30年度 山形市PTA連合会役員名簿 ◆

| 役職名 | 氏 名 | 所属PTA | 役職名 | 氏 名 | 所属PTA |
|----------|---------|---------|------|---------|---------|
| 会 長 | 佐 藤 博 之 | 第 六 小 | 理 事 | 飯 野 茂 宜 | 西 山 形 小 |
| 副 会 長 | 齋 藤 秀 和 | 第 九 小 | 理 事 | 柴 田 専太郎 | 第 四 中 |
| 副 会 長 | 吉 村 和 武 | 第 一 中 | 理 事 | 高 梨 哲 也 | 第 七 中 |
| 副 会 長 | 宇 野 正 彦 | 南 沼 原 小 | 理 事 | 緒 方 晴 英 | 高 楯 中 |
| 副会長（T） | 東海林 昭 善 | 東 小 | 理 事 | 菅 江 正 幸 | 附 属 中 |
| 副会長（T） | 高 寫 良 介 | 第 三 中 | 理 事 | 高 見 佳 澄 | 山 寺 小 中 |
| 理事（小部会長） | 高 野 秀 哉 | 蔵王第二小 | 監 事 | 伊 藤 哲 雄 | 第 一 小 |
| 理事（中部会長） | 伊 藤 誠 | 第 二 中 | 監 事 | 樋 口 潤 士 | 金 井 小 |
| 理 事 | 古 沢 和 明 | 第 三 小 | 事務局長 | 村 山 良 光 | |
| 理 事 | 菅 野 学 | 南 小 | 事務局員 | 佐 藤 静 子 | |
| 理 事 | 伊 藤 一 洋 | 本 沢 小 | 事務局員 | 熊 谷 慶 子 | |

編集後記

山形市PTA連合会会報「じゅひょう」作成、原稿依頼、校正は、事務局のお手伝いをいただきながら、広報委員会で行っております。

今年度は、紙面に工夫を凝らしながら、できるだけ多くの皆様にご覧いただけるよう配布方法などの協議もさせていただきました。

寄稿いただきました皆様、それぞれ単位PTAの活動もある中、作業していただいた委員の皆様、ありがとうございました。



平成30年度市P連広報委員会 委員長 吉村和武 委員 高野秀哉・伊藤 誠・菅江正幸・樋口潤士